

世田谷村日記

石山修武

六月十一日

流石に、李祖原と同行したこの一週間はいささか疲れた。朝はゆっくり眠らせてもらった。昼過ぎ宗柳でK君を交え昼食。

今日は設計製図の講評会で、十三時頃大学へ向かう。今日、学生達に、タジキスタン・キルギスタン・カザフスタンの説明会、ソクローフのビデオ会のアナウンスする予定。諸々の事を考えれば、今、危険度Aの地域での仕事の情報を学生に伝えることのは非は考慮しなくてはと思うが。磯崎新も大変な事を言い出したな。十四時過大学。

十五時講評会。十九時頃修了。二〇時過入江、赤坂、宮崎、各先生と会食。二十三時頃迄。世田谷村に二十四時前戻る。

六月十二日 日曜日

久しぶりの休日。川添登さんから贈っていた、「メタボリズムとメタボリストたち」（美術出版社）他乱読。夕方、上の菜園、下の菜園に生ゴミを埋める。一週間程の生ゴミはかなりの量である。こんなにゴミを排出して暮らしているのだと、実感する。メタボリスト達の中では大高正人氏のの章が面白かった。大高さんには何かとお世話になった事もあった。自由民権運動の父を祖に持った人であるのを初めて知った。藤森昭信の「ダイナミックな建築史」再読。川添登の文のスタイルと藤森のそれとは、全く異なる世界であるのを実感する。藤森のメタボリスト達の評価を読んでみたい気がする。藤森の基盤は何と言っても、日本の

近代建築（明治洋館を中心とする）をほとんど全て実見し、体感している事であろう。ラスキンではないけれど、設計者やレンガ積みをする職人達の側に立ち、彼等の想像力や夢の側に立ち建築を考える事が出来るようになった。同時に史家として、それ等を概観する事も可能である。それ故彼は必然的に後半生、作家になりつつある。

六月十三日

九時世田谷村を発つ。

十時研究室。丹羽君が日曜日にホームページに手を入れてくれたようだ。毎週毎週の休日更新は無理だろうが、読者諸氏はページの更新の速力を求めているので、それには出来るだけ応えたい。ネット社会の新しい事態に直面している。私自身がサイトの編集が非力なので丹羽君に負担をかけている。昨日と今朝、カバーコラム藤森昭信の「人類と建築の歴史」書評書く。つつい興が乗ってコラムには過ぎた字数になった。字数が増加して読むのが大変になると、そのサイトはパスされてしまうようで、誠にネット情報は難しい。それでも大方の読者の支持は増えている様だ。このページは研究室の毎日の機関誌として充実させてゆくつもりだ。すでに六月も半ば。やりたい事は山程あるのに、出来た事は小さい。

松村秀一氏が日本建築学会賞（論文）を受賞して、その祝いの会が七月に持たれるとの知らせが入った。良かった。彼の容量の大きさに託さねばならぬ事はこれから益々ふえるだろうから。二〇時過新大久保駅前近江屋でスタッフと会食。二十一時四〇分修了。世田谷村に戻る。